

本會記事

序

昭和三年十一月二十三日に開催された第二回代議員會に於て本年度より着手すべき重大なる問題が三つ殘されてあります。

即ち

- 一、二十周年記念事業に關する件
- 二、會員相互扶助方法に關する件
- 三、就任寄附受納に關する件其他

其の後は等の問題に付いては前後數回に亘り役員會、研究會等を開いて漸次具体化する方針を樹て遂に今日に至りましたが、夫れ迄に於ける進展と目下の狀態を御報告致します。

一、二十周年記念事業に關する件

従來 二十周年記念事業に要する費用は一萬圓を會費の特別積立金より支出し其の他の殘額を一般寄附に求める計畫でありましたが第二回代議員會の決議に依り更に別に一萬圓を會員の特別寄附に俟つことになりましたから、一般寄附

に據る可き總額は參萬七千圓になりました。先づ、此の寄附金を仰ぐために協賛會の設立を畫したのであります。

此の記念事業案が計畫されて以來今日迄積極的に最も援助を與へて呉れたのは上田市當局者でありましたから勝俣市長、柴崎助役、成澤市會議長、伊藤商工會議所會頭、岡田書記長等の諸氏に數回御會合を願ひ具体的方針を樹立し、愈々五月一日午后一時より上田市公會堂に於て母校二十周年記念事業協賛會設立發起人會並創立總會を開くことに決定し其の前に發起人として賛同を得て居た人々を今回も發起人として夫々依頼狀を發したのであります。

製糸業者

諏訪郡平野村岡谷

小口村吉氏代理

柳澤忠次氏

北佐久郡小諸町

小山邦太郎氏代理

小山二郎氏

丸子町

下村万助氏

上田市

笠原善吉氏

蠶種製造者

小縣郡鹽尻村

馬場歲次氏

同

佐藤尾之七氏

同郡中鹽田村

若林祐作氏

上田市

宮下智三郎氏

上田市

上田市長

勝俣英吉郎氏

上田市會議長

成澤伍一郎氏

上田市商工會議所副會頭

同 書記長

母 校

濱村幾次郎氏

岡田賢次氏

針塚長太郎氏

井上柳梧氏

早川直瀬氏

本 會

本會在田役員

全 員

勝俣上田市長會合の主旨を陳べて開會を宣し議事進行上座長を學ぐることを諮り馬場歲次氏を座長に指名して馬場氏に席を譲り。馬場氏簡單に挨拶を陳べ理事者提出の原案に基き漸次議事を進行致しました、其の結果確定した會則並に豫算は次の如きものであります。

上田蠶絲專門學校創立二十周年記念事業協賛會會則

第一條 本會ハ上田蠶絲專門學校創立二十周年記念事業協賛會ト稱ス

第二條 本會ハ上田蠶絲專門學校創立二十周年記念事業ヲ協賛スルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ上田蠶絲專門學校同窓會及本會ノ趣旨ニ賛助セルモノヲ以テ組織ス

第四條 本會ハ事務所ヲ上田蠶絲專門學校内ニ置ク

第五條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達成センガため左ノ事業ヲ行フ

一、記念會館ノ建設

二、祝賀記念講演會ノ開設

三、記念祝賀式ノ協賛

四、其他必要ト認メタル事業

第六條 本會ハ役員會ヲ設ケ必要ニ應シ會長之ヲ召集ス役員會ハ理事及專任幹事ヲ以テ組織ス

第七條 左ノ事項ハ役員會ノ決議ヲ要ス

一、規則ノ改廢

二、寄附金募集方法

三、經費豫算決算

四、其他重要ナル事項

第八條 本會ニ左ノ役職員ヲ置ク

一、會長 一名

二、副會長 二名

三、理事 二十名内外 内一名會計主任ヲ置ク

四、委員 若干名

五、幹事 若干名 内二名專任幹事ヲ置ク

第九條 會長副會長ハ發起人會ニ於テ推薦シ其他ノ役員ハ會長之ヲ委囑ス

役員ノ任期ハ本會ノ存続スル期間トス

第十條 本會ニ名譽會長一名並ニ顧問若干名ヲ置キ會長之ヲ推薦ス顧問ハ役員會ニ出席シ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第十一條 本會ハ名譽會長トシテ長野縣知事ヲ推薦ス

第十二條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理ス副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス幹事ハ庶務

會計其他ノ會務ヲ掌理ス委員ハ會長ノ命ニ從ヒ會務ヲ分掌ス

第十三條 本會ノ豫金ハ第十九銀行、信濃銀行及上田信用組合ニ預ケ入ル、モノトス

第十四條 本會會務ノ實行ニ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム 以上

豫算

收入豫算 總計金六萬五千圓也

内 譯

一〇、〇〇〇圓

同窓會特別積立金ヨリ支出

一〇、〇〇〇圓

同窓會員中ヨリ特別寄附一口五圓宛二千口ノ豫定

二五、〇〇〇圓

全國製絲業者、紡織業者、輸出業者各位ヨリ寄附ヲ仰グ

七、〇〇〇圓

同蠶種製造業者、養蠶業者各位ヨリ寄附ヲ仰グ

一三、〇〇〇圓

上田市有志其ノ他ヨリ寄附ヲ仰グ

支出豫算 總計金六萬五千圓也

内 譯

五〇、〇〇〇圓

針塚記念會館建築設備其他

三、五〇〇圓

協贊會祝賀費

四、五〇〇圓

募集費其他諸雜費

四、〇〇〇圓

祝賀講演會費及諸印刷通信費

三、〇〇〇圓

豫備費

次で役員選舉に移りました所一會員の提議により議長を加ふる五名（濱村、下村、笠原、宮下）の銓衡委員によつて

銓衡することになり別室に於て協議の結果左記諸氏を夫々頭書の役員に銓衡し萬場の容るゝ所となつたのであります。

本會役員氏名

名譽會長 長野縣知事 千葉 了

會長 勝俣英吉郎

副會長 成澤伍一郎

理事 濱村幾治郎

笠原善吉

沓掛正一

兒玉衛一

柴崎新一

松村季美

林 貞三

倉澤美徳

高木三治

須田圭二

杉木政義

齋藤菊雄

和田 晋

熊谷恒次

伊藤傳兵衛

岡田賢次

金子行徳

山岡愼一郎

宮下智三郎

下村万助

小林茂樹

飯嶋正胤

森山二郎

小山二郎

加美好男

猪坂直一

川船卓爾

宮澤 勇

若林祐作

瀧澤一郎

山本莊一郎

宮下 周

佐藤嘉三郎

蒲生俊與

濱井壽夫

久保田正樹

二六名

平澤 勝

中澤勝也

佐藤愛之

氏家忠次

其他各地方より推薦されし人々

幹 事
顧問

北澤周一以下二十一名即ち在校卒業生全員

本縣内務部長

學務部長

飯島保作

今井五介

今井眞平

石井祐助

馬場歳次

橋爪忠三郎

片倉兼太郎

瀧澤助右衛門

武井覺太郎

小口村吉

小口重太郎

小口善重

工藤善助

倉澤運平

柳澤禎三

山田織太郎

深井功

二本 洵

小林 暢

小嶋大治郎

小山邦太郎

小山鶴太郎

小岩井宗作

越 壽三郎

篠崎四郎

平野桑四郎

二十八名

勝俣會長中座のため成澤副會長全役員に代つて就任の挨拶を陳べ閉會を宣し茲に無事本校二十周年記念事業協賛會の設立を見たのであります。

尙當日欠席者にして役員に當選せられた人に對しては早速手紙を以つて御了解を願つた所孰れも御快諾を得たのであります。

茲で會員諸氏に御了解を得て置きたいことは會報第十八號六頁所載の豫算は總計五万五千圓であつたものが今回は六万五千圓となり従つて内容も多少増減を來して居ることであります。

之れは創立總會に於て問題となつた所でありますが要は會館建設の内容を充實せしめたいためと、目標を大にして豫

定の金額又は夫れ以上を募集したいためであつて前回の代議員會に於ける豫算成立の趣旨には何等抵觸して居りませんから御了承願ひ度いと存じます。

扨て如斯くして協賛會を設立致しましたから早速寄附募集許可を出願し、一面既定の方針により寄附募集に着手致しました。

先づ趣旨書を作る必要がありましたので起草委員を擧げて起案し研究會に諮つて再三審議し左記の如き成文を得たので之を印刷に附し依頼狀に會則豫算を添えて約三千名に發送を致しました。

趣 意 書

上田蠶絲専門學校は明治四十三年の設立にかゝり昭和五年は正にその二十周年に當る、二十年の歲月は必ずしも長しとは云ふべからざるも同校が我が蠶絲業の最高學府として今や一千に垂々たる卒業生を社會に送り又幾多權威ある學術的研究を完成したる跡を顧みれば國家産業に貢獻せる所蓋し尠少に非ざるなり。

然り而して斯る同校の發展伸張は大方官民諸氏の熱誠なる後援に由るところ固より多しと雖も亦校長針塚長太郎先生が創立以來同校設立の本旨に基きて或は諄々子弟を教諭し或は拮据校務に執掌して寧日無き献身的努力に負ふところ最も大ならずんばあらず。

抑々針塚先生は夙に志を蠶絲業の啓發に有し、明治二十九年駒場農科大學の業を卒ふるや東京蠶業講習所及び生絲検査所に職を奉じ既に斯業に貢獻せらるゝところあり、其後海外に留學し特に獨逸の農業に就き研鑽を積まれ歸朝後文部省實業學務局に勤務して實業教育の爲に盡瘁せられしが明治四十三年上田蠶絲専門學校の設立せらるゝに方り校長に任ぜられ以て今日に至れるものにして先生の過去三十餘年は殆んど實業教育に獻げられ、殊に蠶絲業教育は先生畢生の事業たるに庶幾し、而して其の人格と學殖とは萬人の師表として欽仰せられ教化の及ぶところ頗る廣

大なるものあり、特に先生が德育の標的とせらるゝ質實剛健清廉簡直は同校の校風に浸潤し一千の卒業生は深く先生の意を體して社會に出で鞠躬如として先生の教訓に悖らざらんことを之れ努む、斯くて今や先生の徳風は全國に遍く其の崇高なる人格と該博なる學識とは萬人均しく敬慕して措かず、洵に教育者の典型と云ふべし。

今や同校は創立二十周年の記念すべき日を迎へんとす、此の時に方り我等は先生の功績を思ひ先生の高徳を仰ぐや切なり、而して同校の爲二十周年を慶賀すると共に我等先生の學徳を景仰する者或は其の薰陶を受けたる者相圖り先生の功績と徳風とを永く後世に傳ふるの意味を以て針塚記念會館なるものを建設せんと欲す、記念會館は主として蠶絲業に關する圖書參考品を蒐めて之を一般に公開し或は來校者參觀者の休憩又は蠶絲業に關する集會等に供して聊か斯業に寄與するところあらんとす。

勿論本會館の結構規模は決して廣大と云ふべからず、内容は必ずしも完璧と云ふべからざるも同校々運の振作を記念し針塚先生の功績及高德を傳ふるの意を表するに於ては惟ふに遺憾無からんか。

是に於て我等は別項の如き「上田蠶絲專門學校創立二十周年記念事業協賛會」を組織し本事業の達成を計らんとす、冀くは江湖有志の諸彦幸に我等の微意本會設立の趣意を賛せられ本事業の遂行に多大の援助を賜はらんことを。

昭和四年六月

上田蠶絲專門學校創立二十周年記念事業協賛會

依頼狀發送の範圍は便宜上次の標準に據つたのであります。

一、養蠶關係

全國一萬枚以上蠶種製造業者（昭和二年調査）

長野縣内三千枚以上同

小縣郡上田市全部同

（同）
（同）
（同）

長野縣養蠶組合聯合會役員等

二、製糸關係

百釜以上の製糸業者

(同)

長野縣生糸同業組合役員

横濱、神戸生絲商には同支部と協議の上發送の豫定

三、紡績關係

全國紡績業者

四、其他

養蠶、製糸、紡績に關する輸出商機械商

長野縣選出代議士、縣會議員、蠶糸業調査會委員

上田市小縣郡有志者

尙此の依頼狀は會員諸氏にも御參考迄に御送附致し且つ此の規準以外に適當なる方面其他寄附募集の手段等にして御氣付きの點あらばドシ、御注意下さる様御依頼を致して置きました。

本部の役員は別項記載の如く夫々本會の役員に就任しては居りますが更に一層完璧を期し業務を遲滯なく進捗せしむるために研究會を設置し、大小悉く研究協議して誤り無きを期して居ります。凡て協賛會事務の主任は林理事之にあたり本部役員並に三日會々員が研究會の會員であつて、中嶋角太郎、田玉龜太郎の兩氏が書記に關する事務を担当致して居ります。

此外各支部に委員を設け會務遂行上特に御盡力を請ふことに致し、各支部會員の約一割を規準とする數の選任を支部長に御依頼しましたが左の支部より左記氏名の御報告がありました、依頼狀は各員に出しては置きましたが重ねて御依

頼を願ひます次第であります。

委員氏名（順不同）

北信支部

中澤 忠

栗林 悦

水島 山太郎

兩毛支部

織田 博

橋本 景吉

岡部 彌平

福島支部

大名 昇

笠原 重龜

北陸支部

安嶋 義久

山形支部

武田 豊太郎

近畿支部

塚田 鎮磨

甲田 勝衛

兵庫支部

松井 清藏

林 新一

南信支部

酒井 末吉

神奈川支部

有賀 文雄

豊部 正己

小山 二郎

峯村 眞一郎

岸 勝彌

小澄 晋

金兒 文夫

富澤 政治

根岸 只吉

多勢 龜次

神保 喜久

石原 石司

竹内 五之助

立岩 笑保

田口 博輔

伊藤 競

府川 作平

浦山 藤吉

尾見 祐八

青木 針三郎

梅澤 庫太郎

富田 治衛

田中 一男

依田 武治

木内 保平

須田 國之助

茨城支部	宮田鐵五郎	中山鑑一	
山陽支部	中根廣		
東海支部	土岡光郎		
	鈴木鍊一	柴田末治	戸倉八峯
	式田定千代	上原清夫	鍵谷傳
新潟支部	菅原勇治	篠田平三郎	
南九州支部	二宮九二二	鈴木武造	
	田浦準	木脇寅態	廣瀬清四郎
北奥支部	富岡泰	松岡道也	甲斐致
山梨支部	馬場政友	小林國造	
	絹村貢		

各支部長は御報告中に無くとも委員として御盡力を御願ひ致します。

二十周年の祝賀を舉ぐ可き主本たる吾が母校に於ては本問題を如何に取扱ひつゝあるか！と申しますと之又着々實行の歩を進め、去る四月二十七日全校職員の打合せ會を開き爾來數回の會合を重ねて左の如き規程を定め同時に會長によつて役員が任命せられたること左の如くであります。

上田蠶絲専門學校創立貳拾周年祝賀會規程

第一條 本校創立貳拾周年ヲ祝スル爲メ祝賀會ヲ設ク

第二條 祝賀會ハ本校校員學生卒業生ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 祝賀會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長 一名

一、副會長 一名

一、評議員 若干名

一、委員 若干名

第四條 會長ハ祝賀會事務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ役員會議ニ列席シ意見ヲ述べ議決ニ參與ス

委員ハ會長ノ指揮ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五條 會長ニハ本校々長ヲ推戴シ副會長ハ本校職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第六條 評議員ハ本校職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第七條 委員ハ左記各號ヨリ會長之ヲ囑託ス

一、本校職員

一、本校卒業生

一、本校學生

但シ役員會ハ本校職員タル委員ヲ本體トナシ他ノ二委員ハ必要ニ應ジ隨時出席セシムルコトアルベシ

第八條 委員ヲ左ノ七條ニ分ツ

一、庶務係

一、會計係

一、式場係

一、接待係

一、講演係

一、祝典係

一、警備係

第九條 各係ニ於ケル事務分掌ノ事項左ノ如シ

一、庶務係 招待狀發送雇傭人勤続者ノ表彰校史編纂事務記錄徽章制定其他々係ニ屬セザル事項

一、會計係 收入支出ニ關スル事項物品購入保管ニ關スル事項

一、式場係 式典ニ關スル設備及次第ニ關スル事項記念品作製ニ關スル事項

一、接待係 來賓接待(受付送迎宿舍)ニ關スル事項、祝宴會ニ關スル事項

一、講演係 講演展覽校內參觀ニ關スル事項講演集出版ニ關スル事項

一、祝典係 運動會提灯行列其他余興ニ關スル事項、本校緣故物故者追悼ニ關スル事項

一、警備係 校舎内外ノ警備ニ關スル事項、衛生看護ニ關スル事項

第十條 各係ニ委員長ヲ置キ各分掌事務ヲ統轄セシム

委員長ハ當該委員中ヨリ會長之ヲ指名ス

第十一條 本會役員會議ハ役員總會委員長會ノ三種トス

一、役員總會ハ會長若シハ評議員過半数ノ同意ニヨリ必要ニ應ジ隨時之ヲ召集シ重要事項ニ就キテ協議ス

一、委員會ハ委員長必要ニ應ジ部屬各委員ヲ隨時召集シ分掌事項ニ就キテ協議ス
一、委員長會ハ會長必要ニ應ジ各係委員長若シクハ同代理者ヲ隨時召集シ分掌事務ノ聯絡其他重要事項ニ就キ

テ協議ス

第十二條 役員會議ハ總役員ノ三分ノ二以上出席スルコトニヨリ議決ヲ爲スコトヲ得

第十三條 役員會議ノ議事ハ出席役員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニヨル

第十四條 各役員ノ任期ハ本祝賀會ニ關スル殘務ノ完了ヲ以テ終ル

第十五條 本會ノ經費ハ左記各號ニヨル

一、職員寄附金

一、學生寄附金

一、同窓會寄附金

一、一般寄附金

一、其他

附則

校史編纂委員ハ別ニ之ヲ設ク

校內展覽ニ關シテハ別ニ實行委員ヲ置ク

上田蠶絲專門學校創立二十周年祝賀會役員氏名

會長

針塚長太郎

副會長

阿形輝司

評議員

井上柳梧

大瀧照太郎

石倉新十郎

早川直瀬

古谷榮藏 林貞三 森山二郎 小澤綱吉

太田千五郎 倉澤美德

庶務係

委員長 小澤綱吉

委員

都筑貞吉 竹下文英 倉澤美德 荻原清治

小林清丸 若林三郎 清水運策 中嶋角太郎

會計係

委員長 太田千五郎

委員

林貞三 和田主計 飯嶋寬 清水運策

小山滋 小林九十九 田玉龜太郎

式場係

委員長 石倉新十郎

委員

內田浩 清水寬孝 窪田潤 小澤綱吉

杉木政義 三輪貞德 高橋清七 中曾根長男

和田利彰 針塚民一

接待係

委員長 早川直瀬

委員

古谷榮藏 森山二郎 都筑貞吉 和田主計

竹下文英 林太郎 春原良太郎 中澤喜八

大原賢治 北澤和 山口定治郎 北澤孝一

講演係

委員長 遠藤保太郎

委員

金子英雄 蒲生俊興 三谷徹 中澤喜八

堀久三郎 竹內善吾 小林貫一 北原基

茅野清三郎

祝典係 委員長 佐藤利一

委員 小澤丘 岩崎喜三郎 半田孝海 北澤周一

荻原清治 内藤榮吉 依田彌亮 山下忠雄

成瀬次男 山崎壽 遠藤正壽

警備係 委員長 佐藤春太郎

委員 目崎三郎 須田圭二 田中清 後藤健雄

志田敬夫 井澤喜三 小林兼作 今村良郷

校史編纂委員 阿形輝司 井上柳梧 大瀧照太郎 石倉新十郎

早川直瀬 古谷榮藏 金子英雄 小澤綱吉

展覽委員 井上柳梧 大瀧照太郎 石倉新十郎 佐藤春太郎

内田浩 清水寛孝

本規程に包含せられたるものの中には其の費用を同窓會又は協賛會より支出し、事實は夫等の會員の手によつて爲さるゝものもありますが、畢竟仕事其のものゝ性質が學校の名に於て爲すべきが適切であると解釋せらるゝ項目は本豫算中に繰り込まれ外面上矛盾無きやう組成せられてあります。

又該經費の捻出に對しても學校當局としては今から豫算に到達するやう準備を致して居ります即ち

一、學校贖出金 三、〇〇〇圓

二、文部省支出（豫定）一、〇〇〇

三、職員寄附金 一、三〇〇

四、傭人同
五、學生同

計

一八〇
三二四
五、八〇四

職員寄附金は毎月

月額俸給

百圓以上

千分ノ十

八十圓乃至九十九圓

同 九

六十圓乃至七十九圓

同 八

四十圓乃至五十九圓

同 七

三十九圓以下

同 六

の割合で釀出し已に四月より之を實行し傭人も亦極めて小額を釀出して居ります。

此等の經費に協賛會負担金を合つし約一萬圓内外を豫定して各項に分割致すのでありますが詳細なる豫算は豫算委員の手によつて目下編成中でありまして本稿を起す時には確定しては居りませんでした。乍然、略骨子文は成立して居りますから遽からず決定し必要に應じて實行に移る豫定であります。

× × × × ×

如斯今や三圍休戦を並べて相提携し盛典の目標をめ指してスタートを切つたのであります。乍然、まことに殃ひなる哉時恰も經濟界の不況なる時代に遭遇し民心痛く疲れて居ります、然かも此の秋を期し本校有史以來の大盛典を最も有意義に敢行しなければなりません。其の困難や知る可く、其の勞苦や實に測る可からざるものと存じます、かく觀すれば本會々員にして第一戦に立ち勝負を寸前に決する闘士の努力を思ひ轉た泪無きを得ないのであります。さりながら此の難事を切り抜けて彼岸の光明に到達することも或は男子の本懐とする所かも知れませんが、兎に角本部としても全生命を

捧げて奮闘致しますから向後一層の御鞭撻と御努力を願ひ上げます、吾々會員の燃ゆるが如き一團の鐵火でなければ此の難壁を突き抜くことは出来ないであります。

今月迄に於ける寄附の一、二に付きました豫測を御報告致しますと某大製糸家で三、〇〇〇圓、本校附近の製糸家で一、〇〇〇圓が略々御承諾を下さいました、趣意書等を發送しましたのが辛く此の六月二十二日でありますから、未だ、手は染めては居りませんが繁閑の時期を狙ひチャンスを逸せず活動したいと思つて居ります。

特に此の問題に對し再々御忠言又は御足勞を賜つた東京支部、神奈川支部等へ感謝の意を表します。

× × × × × ×

主として本問題で會合した本部の誌を報告致します。

十二月七日

母校養蠶部に於て役員會三日會開催左の件を議す

一、基本金に關する件

二、二十周年記念事業に關する件

一月十九日

母校養蠶部に於て 議題

一、二十周年祝賀方法の研究

二、代議員會代表者の交渉顛末の報告

三、蒲生理事長病氣經過報告

二月九日

養蠶部に於て 議題

一、協賛會委員の選任

二、二十周年記念事業の方法

三、浦生理事長病氣見舞

三月八日

一、寄附金募集に關する件

二、二十周年記念事業委員設置

三、常任幹事設置に就て

四月十五日

一、寄附募集の具体的方法

一、地方委員に關する研究

四月二十三日

一、發企人會開催に關する件

五月一日

一、發企人會並に創立總會

二、會員相互扶助方法に關する件

相互扶助案に就ては東海支部兩毛支部兩部から第一回第二回の代議員會とも提案され殊に第二回目には於ては兩毛支部の小澄晉氏から東京高等師範學校内若溪會の共濟會を基礎として詳細な研究の御發表がありました。

其所で本會に於ても其の當時の決議に基き社團法人若溪共濟會を調査することにし過般依田幹事が上京し其の内容に就て當局者からよく承はつて參りました。

尙山形支部近藤正巳氏からは財團法人山形縣教育會の互助部規程を送つて下さつたので彼我對照研究上非常に好都合でありました。

今參考のため若溪會の定款並に細則をお示し致します。

社團法人 若溪共濟會 定款

第一章 總 則

第一條 本會ハ社團法人若溪共濟會ト稱ス

第二條 本會ノ事務所ヲ東京市小石川區大塚町二十三番地社團法人若溪會内ニ置ク

第三條 本會ハ社團法人若溪會事業ノ助成並ニ會員相互ノ共濟ヲ以テ目的トス

第二章 會 員

第四條 本會ノ會員ハ財團法人若溪會員及社團法人若溪會客員ニ限ル

第五條 入會セントスルモノハ住所、氏名、生年月日業務ヲ記入シ本會ニ申込ミ承認ヲ經ルヲ要ス

第六條 會員ハ會費トシテ年額金參拾六圓ヲ二十ヶ年間納付スルモノトス

第七條 退會セントスルモノハ其ノ旨本會ニ申出デ承認ヲ經ルヲ要ス

第八條 會費ノ納付ヲ怠リタルモノハ之ヲ除名ス

第九條 會員ニシテ本會ノ名譽ヲ毀損シタルモノハ評議委員會ノ決議ニヨリ之ヲ除名スルコトアルベシ

第三章 事業

第十條 本會事業ノ概目左ノ如シ

一、社國法人若溪會ニ其ノ事業資金ヲ提供スルコト

二、會員ノ死亡ヲ弔慰スルコト

第四章 役員

第十一條 本會ニ理事五名以內監事三名以內ヲ置ク

第十二條 理事及監事ハ東京市及其ノ隣接町村居住ノ會員中ヨリ選舉ス

第十三條 理事中ヨリ専務理事一名ヲ互選ス

第十四條 理事ノ任期滿了スルモ後任者ノ選任マデ其ノ事務ヲ執行スルモノトス

第十五條 本會ニ評議委員三十名ヲ置キ其ノ任期ヲ二ヶ年トシ毎年其ノ半數ヲ會員中ヨリ選舉ス

缺員ヲ生ジタルトキハ次點者ヲ以テ之ヲ補フ

第十六條 補缺ノ理事、監事評議委員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十七條 評議委員會ハ左記各號ノ事項ヲ議決ス

一、理事及監事ノ選舉

二、豫算議決及決算ノ認定

三、剩餘金ノ積立並ニ處分案ノ認定

四、其ノ他總會ノ決議ヲ要セザル重要ナル事項

第十八條 定時評議委員會ハ毎年三月及四月之ヲ開ク

第十九條 臨時評議委員會ハ理事若ハ監事ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ評議委員五分ノ一以上ノモノ其ノ目的及理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ開會ヲ請求シタルトキ之ヲ開ク

第二十條 評議委員會ニ出席セザル評議委員ハ他ノ評議委員ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

第二十一條 評議委員會ハ事務理事之ヲ招集ス

第二十二條 評議委員會ハ評議委員三分ノ一以上出席スルニアラザレバ開會スルヲ得ズ
評議委員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十三條 定時總會ハ毎年一回七月若ハ八月之ヲ開ク

第二十四條 臨時總會ハ評議委員會ノ決議若ハ會員十分ノ一以上ノモノ其ノ目的及理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ理事ニ開會ヲ請求シタルトキ之ヲ開ク

第二十五條 總會ハ其ノ會議ノ目的タル事項、時日、場所等ヲ示シ二十日以前ニ事務理事之ヲ招集ス
前項ノ招集ハ社團法人若溪會ニ於テ發行スル雜誌ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 定時總會ニ於テ行フベキ事項左ノ如シ

一、事業及會計ノ報告

二、評議委員ノ選舉

三、定款ノ改正其ノ他重要ナル事項ノ決議
第二十七條 總會ノ議長ハ其ノ都度之ヲ選舉ス

第二十八條 總會ハ會員三十分ノ一以上出席スルニアラザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

總會ノ議事ハ第三十三條及第三十五條ヲ除クノ外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六章 會 計

第二十九條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十條 本會ノ資金ハ會費、利殖金、其ノ他ノ收入ヨリ成ル

第三十一條 本會ノ資金ハ社團法人茗溪會ノ事業資金及會員ノ弔慰金ニ充ツ

第三十二條 本會ノ資金ハ事務理事之ヲ管理シ確實ナル有價證券、銀行預金、郵便貯金トシテ之ヲ保管ス又理事ノ協議ヲ經テ會員ニ貸付クルコトヲ得

第七章 雜 則

第三十三條 本會ハ評議委員ノ全部若ハ會員二分ノ一以上ノモノ解散ヲ請求シ會員四分ノ三以上出席シタル總會ニ於テ出席者ノ四分ノ三以上同意シタル場合ノ外解散スルコトヲ得ズ

解散ノ場合ニ於ケル財産ノ處分ハ前項總會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第三十四條 本會ノ公告ハ社團法人茗溪會ニ於テ發行スル雜誌ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十五條 本定款ハ評議委員二分ノ一以上出席シタル評議委員會ニ於テ出席者ノ四分三以上同意シ且總會出席者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ經ルニアラザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

第三十六條 本法人設立當時ノ理事及監事ハ左ノ如シ

姓名省略

社團法人 茗溪共濟會細則

第一條 入會ノ承認ハ理事會ニ於テ之ヲ爲ス

會員タル資格ハ入會承認ノ通知ヲ發シタル日ノ翌月一日ヨリ生ズルモノトス

第二條 會員ニハ會員證ヲ交付ス

第三條 會費ハ一ケ年分宛ヲ前納スルモノトス但シ月割一ケ月分又ハ六ケ月分宛ヲ分納スルコトヲ得

第四條 會費ノ納付ニツキテハ一ケ月ノ猶豫期間ヲ附ス但疾病其ノ他特別ノ事情ニヨリ納付ヲナス能ハズト認メタル

トキハ更ニ一ケ年ヲ限り之ヲ猶豫スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ會員ハ事由ヲ具シタル書面ヲ本會ニ提出スベシ

第五條 會員死去シタル時ハ所定ノ弔慰金額ヲ本人指定ノ受取人ニ贈呈ス弔慰金額ハ左表ノ如シ

第六條 會費納付ノ義務年限内ニ死去シタル會員ニシテ其ノ年分ノ會費ヲ完納セザル場合ニハ所定ノ弔慰金額ヨリ不

足ノ會費ヲ控除ス會費猶豫中死去シタル場合モ亦同ジ但會費ノ過剩アルトキハ之ヲ返付ス

第七條 會員死去シタル時ハ弔慰金受取人ハ遲滞ナク之レヲ本會ニ通知シ且其ノ死去後三十日以内ニ醫師又ハ他ノ本

會員ガ作製シタル死去證明書ヲ提出スベシ

第八條 弔慰金ハ前條證明書ガ本會ニ到達シタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ贈呈ス但特ニ調査ヲ要スルトキハ此ノ限り

ニアラズ

第九條 退會ノ承認並ニ會費怠納者ノ除名處分ハ理事會ニ於テ之ヲ爲ス

第十條 退會者ニ對シテハ既納會費ノ半額ヲ返付ス但入會後五年ニ充タザルモノ及除名セラレタルモノハ此ノ限りニ

アラズ

第十一條 事務取扱規程、會計規程、貸付規程、其ノ他ノ内規ハ別ニ之ヲ定ム

弔慰金額表

年 限	弔 慰 金	年 限	弔 慰 金	會費累計
滿一年以内	一〇〇 _円	滿十二年以内	一、〇〇〇	四三二 _円
同二同	二〇〇	十三	一、〇〇〇	四六八
同三同	四〇〇	十四	一、〇〇〇	五〇四
同四同	六〇〇	十五	一、〇〇〇	五四〇
同五同	八〇〇	十六	一、〇〇〇	五七六
同六同	一、〇〇〇	十七	一、〇〇〇	六一二
同七同	一、〇〇〇	十八	一、〇〇〇	六四八
同八同	一、〇〇〇	十九	一、〇〇〇	六八四
同九同	一、〇〇〇	二〇	一、〇〇〇	七二〇
同十同	一、〇〇〇	二〇以上	一、〇〇〇	會費ナシ
同十一同	一、〇〇〇			

此等の規程を基礎とし會計算表の豫定を次の如く上げて居ります。

社團 茗 溪 共 濟 會 計 算 表

年度	會員數	死亡數	弔慰金	事務費	事業資金	支出合計	會費	會費	費	年度未	積立金 (六分利果算)
	人	人	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
1	2,000	26	3,500	10,000	10,000	23,600	72,000	—	1,486	23,200	23,200
2	2,064	37	7,250	8,000	10,000	25,200	74,304	1,486	1,531	27,104	63,182
3	2,127	38	14,200	8,000	15,000	37,200	76,572	1,531	1,576	27,372	95,575
4	2,183	39	21,200	8,000	20,000	49,200	78,804	1,576	1,620	16,804	120,007
5	2,250	41	29,000	8,000	25,000	62,000	81,000	1,620	1,662	6,300	135,127
6	2,302	42	36,200	8,500	30,000	74,700	83,124	1,662	1,704	7,424	152,320
7	2,337	43	37,200	8,500	30,000	75,700	85,212	1,704	1,745	8,512	171,675
8	2,424	44	38,200	8,500	30,000	76,700	87,264	1,745	1,785	9,564	193,284
9	2,480	45	39,200	8,500	30,000	77,700	89,280	1,785	1,825	10,580	217,246
10	2,535	46	40,200	8,500	30,000	78,700	91,260	1,825	1,864	11,060	243,165
11	2,589	47	41,200	9,000	30,000	80,200	93,204	1,864	1,902	12,004	271,622
12	2,642	48	42,200	9,000	30,000	81,200	95,112	1,902	1,939	12,912	302,733
13	2,694	49	43,200	9,000	30,000	82,200	96,984	1,939	1,976	14,784	337,619
14	2,745	50	44,200	9,000	30,000	83,200	98,820	1,976	2,013	15,820	375,472
15	2,791	49	44,200	9,000	30,000	83,200	100,656	2,013	2,049	16,756	415,963
16	2,846	51	45,200	9,500	30,000	84,700	102,456	2,049	2,084	17,520	459,732
17	2,895	52	46,200	9,500	30,000	85,700	104,220	2,084	2,118	18,248	506,019
18	2,943	53	47,200	9,500	30,000	86,700	105,948	2,118	2,152	18,948	557,700
19	2,990	54	48,200	9,500	30,000	87,700	107,460	2,152	2,185	19,096	612,254
20	3,035	55	49,200	9,500	30,000	88,700	109,295	2,185	—	19,096	670,270
21	3,081	56	50,200	10,000	30,000	90,200	109,876	—	1,217	23,324	630,619
22	3,125	56	50,200	10,000	30,000	90,200	109,876	—	1,242	23,100	691,852
23	3,169	57	51,200	10,000	30,000	91,200	109,876	—	1,266	23,876	704,020
24	3,212	58	52,200	10,000	30,000	92,200	109,876	—	1,290	24,652	717,180
25	3,254	59	53,200	10,000	30,000	93,200	109,876	—	1,315	25,428	731,922
26	3,295	59	53,200	10,500	30,000	93,700	109,876	—	1,339	—	—

會員數 總會員三千四十九人中基礎數二千人を得なければ開始しないことにし尙年々加入すべき人数は新卒業者二百人中其の半分百人を加入する者と見積つて居ります。

死亡數 從來の若溪會員の死亡率と内閣統系局の年齢を對照とした死亡率より確實な率をもとめて極めて安全な範圍で算定して居ます。

事務所費 特別な事務員費、用具、金庫等充分の費用を見積つて居ます。

事業資金 最初から事業資金を同窓會へ提出するのが目的の一つであるからかなり巨額な資金を出して居ります。

會費 會費は月額三圓年三拾六圓でありますが二十二年以後、新加入者が全然無くとも立派に成立しいさゝかも疑懼の念がないと言明して居ります。

更に此の計算表が安全確實なる點を指摘し

一、死亡數を頗る餘裕ある様に見積つたこと。

二、毎年加入者百人としたけれ共百人以上の實數あること。

三、事業資金及事務所費を輕減する余地あること。

四、支出を年度の始めにして利子を見ず收入を年度の中半として低利に見込んだこと。

五、金利を六分としたこと實際は運用によりて八分以上になるべきこと。

六、第二十一年度以後會費完納者激減し會費の收入著しく減するも累年の積立金は七十萬圓に上り此利子を以て收入減を補ひ得る上に尙積立金は累年増加の趨勢に在ること。

を述べて居りますが今日の利子から見ると六分の利子必ずしも安全ではないやうであります乍然現在迄同會が實際經過した成績は實にすばらしき好成绩で丁度滿五ヶ年間繼續して次の如き結果を示して居ります。

若溪共濟會現在額

年度	會員數	死亡數	弔慰金	事務所費	提供金	支出合計
一	二、一〇〇	一二	一、二〇〇、〇 _四	六、七〇九、七二 _四	〇、〇〇	七、九〇九、七二
二	二、二〇〇	二〇	三、五〇〇、〇	五、四五三、七四	一〇、〇〇〇、〇〇	一八、九五三、七四
三	二、三〇〇	一五	五、一〇〇、〇	五、五二六、四二	一〇、〇〇〇、〇〇	二〇、六二六、四一
四	二、三三〇	二〇	八、四〇〇、〇	五、五一五、九八	一五、〇〇〇、〇〇	二八、九一五、九八
五	二、四〇〇	三二	二二、一〇〇、〇	五、四二八、一三	二〇、〇〇〇、〇〇	四七、五二八、一三

年度	會費	諸利息	收入合計	年度末殘金	積立金
一	六八、五二九、〇〇	一、一〇四、二〇	六九、六三三、二〇	六一、七二三、四八	六一、七二三、四八
二	七四、九八一、〇〇	五、五八九、四一	八〇、五七〇、四一	六一、六一六、六七	一二三、三四〇、一五
三	七六、九三六、〇〇	九、九九二、一一	八六、九二八、一一	六六、三〇一、七〇	一八九、六四一、八五
四	七九、一六一、〇〇	一六、〇九四、三九	九五、二五五、三九	六六、三三九、四一	二五五、九八一、二六
五	八一、〇九六、〇〇	一九、〇〇〇、九三	一〇〇、〇九六、九三	五二、五六八、八〇	三〇八、五五〇、〇六

之を豫定表に對照して見ますと事務所費提供金等略々豫定通りの出費をし乍ら積立金は約倍額にも上り安全確實の豫想が充分保證し得らるゝやうに思はれます。

扱て然らば之を本會の實態に取り入れて如何なる結果になるかを計算して見ますと

第一に方式は全部若溪會の夫れを眞似次の如き計算の基礎を取つて算定して見ました。

一、會費は月割二圓年二十四圓とす。

二、弔慰金は左表の通り。

第一年目	五〇圓
第二年目	一〇〇圓
第三年目	二〇〇圓
第四年目	三〇〇圓
第五年目	四〇〇圓
第六年目	五〇〇圓
第七年目	六〇〇圓
第八年目	七〇〇圓
第九年目	八〇〇圓
第十年目	九〇〇圓
第十一年目以下	一、〇〇〇圓

三、死亡者は本會々員中の年平均死亡率を第一年目とし順次一名宛を加えたるものを死亡者とす。

四、會員は四百名の加入を俟つて開始す。

五、毎年の加入者は新卒業生約半分三十名とす。

本會共濟會計算表

年 度	會 員 數	死 亡 數	弔 慰 金	會 費	年 度 末 殘 金	積 立 金 (四分五厘累算)
一	四〇〇 _人	三 _人	一五〇 _圓	九、六〇〇	九、四五〇	九、四五〇
二	四二七	四	、四〇〇	一〇、二四八	九、八四八	一九、七二三
三	四五三	五	一、〇〇〇	一〇、八七〇	九、八七〇	三〇、四八〇
四	四七八	六	一、八〇〇	一一、四七二	九、六七二	四一、五二三
五	五〇二	七	二、八〇〇	一二、〇四八	九、二四八	五二、六三九
六	五二五	八	四、〇〇〇	一二、六〇〇	八、六〇〇	六三、六〇七
七	五四七	九	五、四〇〇	一三、一二八	七、七二八	七四、一九一
八	五六八	十	七、〇〇〇	一三、六三二	六、六三二	八四、一六一
九	五八八	十一	八、八〇〇	一四、一二二	五、三一二	九三、二六〇
十	六〇七	十二	一〇、八〇〇	一四、五六八	三、六六八	一〇一、二二四
十一	六二五	十三	一三、〇〇〇	一五、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇七、七七九
十二	六四二	十四	一四、〇〇〇	一五、四〇八	一、四〇八	一一四、〇三七
十三	六五八	十五	一五、〇〇〇	一五、七九二	七九二	一二九、九六〇

十四	六七三	十六	一六、〇〇〇	・	一六、一五二	(一)	一五二	一二五、二〇六
十五	六八七	十七	一七、〇〇〇		一六、四八八	(一)	五二二	一三〇、三二八
十六	七〇〇	十八	一八、〇〇〇		一六、八〇〇	(一)	一、二〇〇	一三四、九九二
十七	七一二	十九	一九、〇〇〇		一七、〇八八	(一)	一、九一二	一三九、一五四
十八	七二三	二〇	二〇、〇〇〇		一七、三五二	(一)	二、六四八	一四二、七六七
十九	七三三	二二	二一、〇〇〇		一七、五九二	(一)	三、四〇八	一四五、七八四
二〇	七四二	二二	二二、〇〇〇		一七、八〇八	(一)	四、一九二	一四八、一五二
二二	七五〇	二三	二三、〇〇〇		一八、〇〇〇	(一)	五、〇〇〇	一四九、八一八
二二	七五七	二四	二四、〇〇〇		一八、一六八	(一)	五、六八八	一五〇、八一七
二三	七六三	二五	二五、〇〇〇		一八、三一二	(一)	六、六八八	一五〇、九七二
二四	七六八	二六	二六、〇〇〇		一八、四三二	(一)	七、五六八	一五〇、一九七
二五	七七二	二七	二七、〇〇〇		一八、五二八	(一)	八、四七二	一四八、四八三
二六	七七五	二八	二八、〇〇〇		一八、六〇〇	(一)	九、四〇〇	一四五、七六四
二七	七七七	二九	二九、〇〇〇		一八、六四八	(一)	一〇、三五二	一四一、八七一
二八	七七八	三〇	三〇、〇〇〇		一八、六七二	(一)	一一、三二八	一三六、九二七

二九	七七八	三二	三二、〇〇〇	一八六、七二一	二二、三二八	一三〇、七六〇
三〇	七七七	三二	三二、〇〇〇	一八六、四八一	一三、三五二	一二三、二九二

右の表を熟視しますと、若溪會の該表と異なり年度末殘金は第十四年目より積立金は第二十四年目より漸次遞減しはじめ將來の永續性に一抹の暗影をなげかくるのであります殊に右の計算中には割合に費用を多く要する事務所費及び事業資金を見積つて居らないのであります。

尤も之れは年會費二十四圓としたり積立金の利子を四分五厘に見積つたりしてはありますが畢竟最初の第一年目の加入者が少きに失つすることが最大の原因ではあるまいかと推定されるのであります。

此の基礎數に付いて若溪會の理事者は少くとも一千名無ければ經營困難かも知れないと云ふて居ます。

殊に單に此の若溪會の事業だけでは物足らない感じが致しますもつとより進んで積局的に眞に相互扶助の實を上げたものでありますから従而もつと多くの資金を望むのであります。此點から見ると山形縣教育會の互助部は稍徹底的で疾病傷癰の爲三ヶ月以上欠勤したもの、家屋倒壊若は焼失したもの、其他前各號に準すべき災厄に罹つたもの等に迄夫々適當な恩恵を與へ尙且貸付規程を設け其他の購入家屋建設の資金を一定の規程に據つて貸付けて居ります。

尤も山形では積立金は一口壹圓ではあります。が年限を滿三十ヶ年とし四千口を基礎數として居りますから本會の會費に直すと最初二千口の會員を有つわけであります。

擬て此等二者の實態に鑑み本會實行上の將來を推斷致しますと此所に二つの危惧を有するのであります。

一、は前例の無い少數會員を基礎として計畫を樹てることが將來望みありや無しやと云ふこと、二、には教育會又は若溪會の如く殆ど同一職業に従事する會員と本會の如く種々雜多な職業を有つ會員から年々の會員を同一律に二分の一づゝ得ることが出来るか如何かと云ふことであります。

吾々は更に此の二點の將來を正確に卜し確信を持つ迄は乍遺憾事業開始を差し控ひなければならぬと思ひます。殊に前者に對しては若溪會の理事者からもつと根本的な御意見を承はる必要があると思ひます。殊に吾々は出来るならば單に生命保險のみにとどまらずもつと積局的な相互扶助の實を上げたいと思ふのであります。

故に本會でも更に研究を盡したいと思ひますから會員各位に置かれましても充分に研究を願ひ次回代議員會に御意見を承はりたく切望致す次第であります。

三、就任寄附受納に關する件其他

經費多端の折柄幾分收入を補ふ意味に於て就任寄附内規を作つて轉任又は移動する場合に寄附することを第二回代議員會に於て申し合はせを致しました、轉任する場合は慨して位置や俸給が上がるものと見て祝意的の寄附でありますが内規には位置の上下等に關係無く兎に角轉任の場合には申し受くることになつて居ります、勿論寄附で強制的のものではありませんが會員全体の申し合せでありますから多少強い意味も含まれて居ると見て差し支へ無いかと存じます、實は四月以向此の成績が餘りふるつて居りません。此の收入は此等の事務を取り扱ふ人件費に充てる計畫であつて従て會員各位へ還へるべきものでありますから申し合せを遵奉して戴きたいのであります。其所で轉任された場合には左記内規と申込書とを綴り合せた用紙を會計から御送付申上げますから着任の上は可成的早く手續きの御履行を御願ひ致す次第であります。

●就 任 寄 附 内 規

本會の經費頗る多端につき其一部を補はんがために會員にして轉任移動する場合には左記内規に準據し一定率の寄附金を納入すべきことを第二回代議員會（昭和三年十一月二十三日）に於て申合せをなし來る昭和四年一月より之を實施することとせり

●内 規

- 一、寄附金額ハ新任地月收ノ一割トシ着任後三ヶ月以内ニ納付スルモノトス但シ分納スルモ差支ヘナシ
- 二、初任ノ際ハ寄附セザルモ妨ゲズ

上田蠶絲専門學校同窓會

寄附申込書

一金 圓 錢也

但シ 全額壹圓拂
三回拂毎月金

圓 錢宛

右金額寄附申込候也

勤務場所
氏名印

昭和 年 月 日

上田蠶絲専門學校同窓會御中

× × × × × ×

本會賛助員遠藤保太郎先生から種口琢磨氏との共著「日本桑樹栽培論」の版權を遠藤先生の所有分だけ本會へ御寄附をうけました、同書は先生が外遊から歸朝されて以來病中を推して滿三ヶ年間に亘り筆取られたものであつて一章一章に血がにじんで居るものであります、外遊前に御出版になつた桑樹栽培教科書は大震災のため紙型を失ひ絶版になつたため一層貴重視され今は原價の數倍を擲つても容易に得られない良書となつて居ります、丁度其の秋再び同先生によつて先著より尙完全に且つ内容豊富にものされて愛讀者の前に提供されたのでありますから洛陽の紙價を高めずには措かないわけであります。

此の貴重な版權を我が同窓會へ御寄附になつたのであります、加之、本書は本會役員故樋口氏との共著でありまして本會にとつては思ひ出深い記念印刷物であります、吾々は滿腔の誠意を以つて先生の此の御芳情に答へなければなりません、印税は相當額に上る豫定でありますが無れ其の支途に就ては充分研究して利用の道を誤らないつもりであります。

先に本會々員加美氏の美舉あり又々贊助員遠藤先生の御厚志あり謹んで御厚禮を申し述ぶる次第であります。